

令和5年5月11日

記録：関根 浩

令和5年度 第1回 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時 令和5年5月11日(木) 13時30分
2. 場所 大川学園医療福祉専門学校 2階会議室
3. 出席者 新井浩昭（下加治自治会会長）…欠席  
圓山和也（芳友会会長（同窓会））  
小林健一（つつじの園施設長）  
高橋誠一（彩の森接骨院院長）  
岡部一宏（大川学園高等学校校長）  
平澤淳校長 霞孝行柔道整復学科長 星野成美介護福祉学科長  
岡村忠彦教務部長 福島有美事務室長 関根浩学務部長

4. 議題

- ①校長挨拶
- ②委員委嘱状交付・自己紹介
- ③令和4年度「自己評価報告書」の報告・意見・助言
- ④令和5年度事業計画等について
- ⑤年間行事予定について
- ⑥意見・助言等
- ⑦事務連絡

5. 校長挨拶

お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。新型コロナウイルス明けで行事等も元の学校生活に戻ってきています。本日いらっしゃっていただきました先生方にご意見・助言等を頂戴いただけるとありがたいです。今後とも、よろしくお願い致します。

6. 委員委嘱状交付・自己紹介

各委員に委嘱状が平澤校長より手渡され、自己紹介を行いました。

7. 令和4年度「自己評価報告書」の報告・意見・助言

別紙参照。

8. 令和5年度事業計画について

- ・校訓・教育理念・教育目標・三ポリシーとあるが、学生の質も変わる中、学生指導の中で、浸透していかずになかなか難しいところもあるが、繰り返し言っていくことで理解できるようになればと考えています。
- ・今年度より、法人広報室が組織からなくなり、新たに専門学校内で募集活動を行い、入試募集委員長の柔道整復学科の霞孝行学科長を中心に行うこととなりました。

た。今後も、卒業生で組織されている「芳友会」や、HPやブログなどのSNS等での情報発信にも力を入れていきたいと考えています。

- 学生指導では、多く中途退学者が出ないような対策を考えていきます。留学生に対しては、日本語講師と連携し、日本語検定2級以上を取得できるような指導を行っていきます。
- 柔道整復学科の職業実践専門課程の申請を不備の無いよう認可を取得できるように努力致します。また、介護福祉学科も認可5年目となり、要件を欠くことがないよう引き締めていきます。
- 学校周辺の清掃活動や、ボランティアへの参加など地域貢献に積極的に取り組んでいきます。

#### 9. 年間行事予定について

徐々に戻りつつある生活の中、ここ数年中止になっていた「学園祭」を開催する予定です。

#### 10. 意見・助言等

- 患者の立場に立って、専門的な判断ができる人材を育成する計画内容とポリシーだと考えます。
- 3年生の国家試験へのスケジュールも充実しており、昨年度同様の高い合格率が期待できると感じました。
- 国家試験でも、臨床でも力を発揮できる人材育成に取り組む一方で、最近、特に精神面でのサポートが必要な生徒が多くなっているように感じます。接骨院側としては、相談しやすい環境を提供していきたいと考えています。
- 日頃より、自治会活動へのご理解ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。教育理念・目標の人材育成への取り組みは、高齢化が進んでいる私達の地域への貢献となっており深く感謝致します。

#### 11. 事務連絡

次回開催予定 令和6年3月15日(金) 13時30分 2階会議室

<別紙> 学校関係者評価委員会

Ⅰ重点目標について

令和4年度重点目標	達成目標・取り組み
<p>1. 入学生の確保</p> <p>①募集定員の充足。</p> <p>②芳友会(同窓会)との協力。</p> <p>③HPやブログなどSNSの情報発信。</p> <p>2. 学生指導</p> <p>①学生との個別面談実施。</p> <p>②国家試験合格率 100%。</p> <p>③留学生日本語検定 2 級以上取得。</p> <p>3. 職業実践専門課程</p> <p>①介護福祉学科の認可 4 年目。</p> <p>②柔道整復学科の申請。</p> <p>4. 地域貢献</p> <p>①地域行事・各種大会等へのボランティア参加。</p> <p>②校舎校庭・柔道場の開放。</p> <p>③学校周辺の清掃活動。</p> <p>5. その他</p> <p>①芳愛接骨院運営</p> <p>②柔道整復師臨床実習指導者講習会実施</p> <p>③介護福祉士実習指導者講習会実施</p> <p>④ペーパーレス化</p>	<p>1. 入学生の確保</p> <p>令和5年度入学生</p> <p>柔道整復学科 24 名</p> <p>介護福祉学科 37 名(内留学生 10 名 委託訓練生 3 名) 計 61 名</p> <p>※各学科募集定員充足に向け、募集活動の強化。</p> <p>2. 学生指導</p> <p>令和4年度国家試験結果</p> <p>柔道整復師 現役 8/ 9 (89%)</p> <p>介護福祉士 現役 33/36 (92%)</p> <p>※国家試験合格率 100%を目指す。</p> <p>中途退学者を無くす。</p> <p>3. 職業実践専門課程</p> <p>①介護福祉学科 適正な運営を実施</p> <p>②柔道整復学科 申請は次年度に見送り</p> <p>※介護福祉学科の適正な運営継続と共に柔道整復学科の認可を目指す。</p> <p>4. 地域貢献</p> <p>①コロナ渦の影響で、行事等のボランティアは不参加。</p> <p>②校舎校庭・柔道場の開放 自治会、警察、柔道教室等への施設貸し出し。</p> <p>③学校周辺の清掃活動 年末、年度末に実施。</p> <p>※引き続き、飯能市との連携を図り、地元自治会、警察署、諸団体等に協力していく。</p> <p>5. その他</p> <p>①芳愛接骨院運営 一年を通じて適正な運営を実施。</p> <p>②柔道整復師臨床実習指導者講習会 未実施</p> <p>③介護福祉士実習指導者講習会 未実施</p> <p>④ペーパーレス化 教職員へ周知</p> <p>※芳愛接骨院の適正な運営と共に、患者数増に努める。</p> <p>各講習会等の適正な開催に努める。</p>

学校関係者評価

特になし。

## II各評価項目について

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>校訓「自律・協調・奉仕」の下、教育理念、三ポリシーに則り教育活動が展開された。各学科の専門的技術・知識に長けた教員による指導で、資格取得後も現場において即戦力となって活躍できる人材の育成に力を注いできた。また、実践的技術のみならず、人としての原点に立ち返り、学園での学びを通し患者様や利用者様の心に寄り添うことのできる医療人・福祉人の教育を行い、市や警察との連携協定を結び地域に根付いた安心して学べる学校として学生が国家資格を取得する上でもよりよい環境を作り出すよう教職員が一丸となって取り組んできた。また、学生への補習や国家試験対策、卒業・就職サポート等の体制も充実させた。</p>	<p>誰とでも自然に挨拶ができ、笑顔で対応することが必要である。技術的には、最低限備わっていると思われる。言われたことだけやるのは誰でも出来るが、自発的に動いて協調性を保ちながら進化していく…そんな人材が社会では求められているのではないかと思われます。</p>	<p>引き続き、超高齢社会に必要とされる医療・介護の人材育成に努めるべく、教育カリキュラム内容の検討・検証を実施し、教育課程編成委員会、運営委員会等で問題意識を共有する。また、少子化問題に対応するため、今後も本校の教育内容が社会的に、また受験生から更なる評価を得るため情報収集にも努め、改善をしながら、利用者様や患者様に選ばれる介護福祉士、柔道整復師を育て社会に貢献出来る養成施設へと更に発展させる。</p>

### 基準2 学校運営

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>教育理念の具現化のため、学校の目的・目標を明確に打ち出し、その実現に向けての運営方針、事業計画が策定されている。運営組織や意思決定も、学校の目的・目標達成のために、規程に基づきより効率的なものとなっている。また、人事体系、賃金体系等に関しても制度化が図られており、適切な運営がなされていると判断される。今後は、人事考課による処遇制度導入の検討を行い、職員の業務遂行に当たった意識向上を図ることが課題と考える。</p> <p>また、入学定員の確保、教育内容の充実、キャリア教育の推進により所謂「入口と出口」の強化を図り、より多くの地域医療・介護に貢献できる人材輩出に努める。</p>	<p>高校の方でも募集活動が厳しい状況である。募集活動は、内側の努力である、誰にでも公開できるような教育活動と、外側の努力である、高校訪問やその他PRなどの両輪が必要となる。また、少子化も重なり、福祉業界への選択する子供達も少なくなっているのが現状であり、外側へは、学校のアピールを、内側では、オープンキャンパス等に来校していただいた方々に、充実感を味わってもらうことが大切である。</p>	<p>法人広報室、教育支援推進室とも連携を図り、全教職員が学生募集活動に取り組んでいる。定員充足率100%を目指し、高校訪問、進路ガイダンス参加、ホームページ整備、駅看板等広告媒体により学生募集活動に努めている。</p> <p>今後、ますます少子化が進むため、募集定員の確保は最大の課題である。</p>

基準 3 教育活動

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>本校は柔道整復師・介護福祉士を養成する専門学校であることから、その専門職に必要な技術・技能・知識の習得を教育活動の大きな目標とし、同時に社会に貢献できる即戦力としての人材養成を重要視している。この教育目標達成のために、現場経験豊かな教員を揃え、業界を牽引する先生方や現場で活躍されている先生方を講師として招聘し、業界の人材ニーズを常に把握するよう努めている。</p> <p>修業年限に対応した教育達成レベルは明確にされ、そのカリキュラムは体系的に適正に編成されている。</p> <p>また、学生による授業評価は平成 27 年度より実施されており、その結果は各担当教員に知らされている。各教員は、アンケート結果を踏まえ、より良い授業展開に向け切磋琢磨している。</p> <p>法令遵守に努め各学科とも育成目標に向けて授業を行える教員を確保し、教員には専門性や資質向上のための研修会等への参加を促している。しかし、授業等のため長期の研修は難しく、夏休み期間中も体験入学やセミナーがあり難しいのが現状である。</p> <p>成績評価・単位認定、資格取得については明確に定められており、実施されている。</p>	<p>高校の方ではすでに行われているが、専門学校でも授業公開を行ってもいいのではないか。実際に保護者の方々からの問い合わせもある。専門学校としては、保護者の方々などが、授業をご覧になっていただけでも全く問題はない。</p>	<p>就職指導において、ミスマッチをおこさないように業界研究をしっかりと行わせ、意識を高めさせ、十分理解した上での就職先選定を指導し、早期の退職につながらないように、さらなる教育指導を行う。柔道整復学科は平成 30 年 4 月からのカリキュラム変更により、校内実習・校外実習・インターンシップなどで現場実習を体系的に配置し、教育課程をさらに明確にしてきた。今後、教育課程編成委員会にて、新カリキュラムの検証を行い、より良いカリキュラム編成を行う。</p> <p>また、介護福祉学科は平成 28 年度生から国家試験が義務化されたので、国家試験対策の重要性が増している。</p>

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>就職活動については、積極的に動いている学生が少なく、動きが遅い学生もいる。今後も継続して、学生の就職に対する意識の向上を図らせる。また、継続して教員・就職担当が協力して新たな求人先を開拓する。ただし、今年度も介護福祉学科のJOBカフェが新型コロナウイルス感染防止の為、実施することが出来なかったことは残念でした。</p> <p>国家試験対策については、とにかく学生達を合格させることと、それに伴う合格率が重要である。学生個々の成績を国家試験に合格する程度の知識を得る水準までの学力をつけさせることが重要とされる。</p> <p>卒業生の把握については、引っ越し等により連絡が取れなくなってしまう卒業生の現状把握が難しい。芳愛会主催の実技講習会に参加する卒業生が毎年少なくなっているのが現状である。卒業生がそれぞれの業界で活躍しているが、これからも卒業生の動向を芳愛会実技講習会等で把握していきたいと考えている。</p>	<p>就職しても早期に退職してしまう学生も多少はいる。そのような卒業生に対しても再就職の相談ができる環境を整えている。また、結婚等で仕事を退職し、長くその道から遠ざかっている方々に、復帰していただきたいということで、求人募集に力を入れている接骨院様もある。</p> <p>介護施設側としては、新型コロナウイルス感染防止の為に実施されなかった「Job Café」の復活をお願いしたい。</p>	<p>就職活動については、学内では就職ガイダンスやJOBカフェを継続して実施し、学外では、介護施設等の施設実習先や接骨院等の臨床実習先、合同就職説明会への参加等、学生の就職に対する意欲を向上させたいと考えている。また、就職情報を、HP上に掲載すると共に、図書室前掲示板に就職情報を随時更新する。</p> <p>国家試験対策については、これからも成績不良者に対して行う補講授業、協会の臨床的な勉強会に参加するなど、国家試験合格を目指した学習を行うよう指導する。</p> <p>卒業生の把握については、今後も芳友会の活動を通じ卒業生動向を把握していきたい。</p>

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>就職については、教員や就職担当が開拓を行い求人は増えてはいるが、学生の就職に対する動きが遅く、積極性に欠けている学生が多いのが課題となっている。教員と就職担当との連携も体制が整っている為、就職先内定までの就職指導についても充実している。今年度は、柔道整復学科の就職ガイダンスは開催出来たが、介護福祉学科の JOB カフェは、新型コロナウイルス感染防止の為、開催出来なかったことが残念であった。毎年、数人出てしまう退学者に対しては、担任は、普通の学校生活等で不安を持っている学生や、欠席・遅刻・早退が目立つ学生などに対して、自分の経験を生かし、アドバイス等を行っている。</p> <p>学生相談については、在学生からの相談は勿論、卒業生からの相談も、学科教員で対応し、内容の共有化を行う。今後も、留學生に対して、しっかりとした管理を継続し、留學生の日々の動きを注意深く見ることが必要とされる。</p> <p>留學生に対しては、オープンキャンパス等で、条件面、生活面で困らぬよう、事前に説明するようにする。また、入学前に介護施設等対象の説明会も実施している。学費の問題で除籍となってしまった留學生も過去にいたこともあり、残念なことが起きないように、対策する必要がある。学生生活・管理・整備については、奨学金を借りていても経済的事情により学費を納めることが困難になってしまう学生も見受けられる。学生の目標を叶えてあげるため、今後も支援方法を一緒に考えてあげる必要がある。継続して、新型コロナウイルス等の感染防止対策をしっかりと行う必要がある。また、学生の中で陽性が判明した場合の対応が必要とされる。</p> <p>地方から入学を希望する学生に対しては、アパート等の住居を学校の近隣で本人と協力して検索してあげることも必要であると考えている。学生の要望により多種多様な部活・同好会を整備していきたい。学生への経済的な支援、地方から入学する学生の為の住居に関する相談ができる環境を整えることや、学生に対しての国家試験以外の資格に関する充実も必要である。学生への経済的な支援、地方から入学する学生の為の住居に関する相談ができる環境を整えることや、学生に対しての国家試験以外の資格に関する充実も必要である。</p> <p>保護者との連携については、両親が共働きや、一人親の家庭も多くなっていることもあり、保護者が必要の都度来校するのは困難になっているのが現状である。よって、担任が即、保護者に連絡が取れないことも生じている。学校生活の中で、不安定な学生や成績不良の学生に対しては、担任が保護者と連絡を取り、意思疎通を図っている。</p> <p>卒業生・社会人については、引越越し・結婚等により、卒業生本人との連絡が取れなくなり、現状把握が難しい点もあるのが現状である。芳友会の活動を通じ、今後も卒業生動向を把握していきたい。最近、ほとんどの求人に対して年齢制限に関しては問題がなくなってきているが、社会人経験のある学生の就職へ関する考え方の対応が課題となっている。卒業生に関しては、『芳愛会』を充実することが重要だと考えている。社会人経験者に対しては、卒業後、施設・接骨院等、それぞれで活躍できるよう、求人先の開拓が重要である。令和3年度に学園創立 75 周年記念事業のひとつとして、図書室をリニューアルし、利用し易い環境にした。</p>	<p>数年前とは学生の雰囲気も変わり、ゆとり世代と呼ばれる時代の学生達が在学している。本人達に、色々と言ってあげたり、アプローチをしてあげないと、現役生でない学生も含め、ズルい方向へ向いてしまう。すでに専門学校生にもかかわらず、自主的に動ける学生が少なくなっているのが現状である。面倒ではあるが、個々に細かく丁寧に対応していかなければならないと思われる。</p> <p>入学してすぐに、「退学したい」と口に出している学生もいるが、その保護者の方も、「好きでいいよ」と言ってしまう傾向にあるようだ。昔ではありえない話ですが…。</p>	<p>就職に対する学生の意欲を向上させる為、就職ガイダンスやJOBカフェの充実、学外では、施設・接骨院等の外部実習先への就職を検討、学生自身が合同就職説明会へ参加し、意識の向上を図らせる。就職情報をHP上に掲載すると共に、掲示板と廊下など目立つ場所に随時更新し、掲示していくことを行う。</p> <p>退学者ゼロを目指し、担任を中心に教職員が学生の様子を確認し声掛け等を行う。また入学希望者や留學生には、入学前のオープンキャンパス時や入学者保護者説明会等に意識付けを行った説明を心掛けている。退学者ゼロを目指し、担任を中心に教職員が学生の様子を確認し声掛け等を行う。また入学希望者や留學生には、入学前のオープンキャンパス時や入学者保護者説明会等に意識付けを入れた説明を心掛けている。</p> <p>精神的弱い学生が増加し、在学中に問題がなくても、職場の環境に馴染めず、精神的な病になる卒業生も見受けられます。相談し易い環境を各教員が提供する努力が今後も必要とされる。相談等できる環境は整っているが、見えない部分の悩みもあると思うので、気付いてあげながら万全な対応を心掛けることが大切である。</p> <p>経済的事情により学費を納めることが困難になっている学生に対し、分割等により納入できるような形で現在は行っている。また、成績に影響が出ないことを条件に、アルバイト等も勤めている。学生に対し、健康チェック表を携帯電話等で毎日入力させ、個々に管理するのは勿論、担任もチェックし、教室の清掃等も消毒等を行いながら、新型コロナウイルス等に感染させないよう心掛けている。学生寮を含め、学校近隣の住居の検索を強化する必要がある。学生の要望に応えられる顧問の能力や技術を身につけることも大切なことである。</p> <p>最近の学生は、保護者に対して普段の学校生活を充分には伝えきれないこともある。保護者への案内等がある場合には、今までどおり保護者へ直接郵送を行っている。また保護者対象の説明会時に事例を含めての説明を必要とする</p> <p>卒業生については、更に詳しい情報を収集できるような体制が必要であり、今後の卒業後の研究活動に対する支援ができるようなものをいずれ検討を必要とする。社会人経験のある学生の就職希望者に対し、また年齢を重ねた学生に対しても卒業生全員が就職できるよう、教職員は一丸となって就職相談等に努めている。</p>

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>施設・設備は学生の学校生活に支障がないように整備され、かつメンテナンスの体制も生まれ、学生、教職員の施設設備面での安全確保はなされている。将来に向けての課題は資金を含むキャンパス整備の実施である。</p> <p>学外学習では、介護福祉学科が校外実習を実施しているが、今後は柔道整復学科のインターンシップの有り方について、検討する必要がある。</p> <p>防災・安全管理については防災・防火訓練などにより意識の高揚を図るように取り組むと共に、生徒が授業の関連で事故等にあった場合の保険対応はできている、今後は自然災害などへの対応の充実が検討課題である。</p>	<p>欲を言えばキリがないので、与えられた環境の中で、何が出来るのか…良いものを探して出来ることから始めることが必要である。</p>	<p>学外学習のあり方を含め、魅力ある教育課程を編成する。</p> <p>今後、適切な防災活動を実施するために、管理規程、行動マニュアルなどを整備し、不測事態への態勢を万全にしていきたい。</p>



基準 7 学生の募集と受入れ

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>募集対象者を高校生として募集活動を行っていたことには変わりがない。ただ、18歳人口の減少が顕著になり、今後さらなる現象を考えるとリカレント教育、留学生対応にも募集の幅を広げていかなければならない。本校は国家資格の取得を目指す専門学校である。定年の年齢の引き上げとともに人生100年時代をどう生きていくかを考えると国家資格が取得できる本校は一定のアドバンテージはあるであろう。高校生を対象とした募集活動に軸足を置きながらも就職活動で様々な理由で意に添わなかった大学生にも募集の幅を広げる必要がある。また、一旦は就職したが、就業している現状や将来のことを考え、資格取得を考える比較的若い世代もターゲットとなる。さらに、子育てが一段落した世代が資格取得を目指し、「学びなおし」を行う国の施策の一つであるリカレント教育を目指す世代にも入学への門戸を広げる必要があると考える。介護福祉学科においては、ここ数年一定数の留学生が入学している状況を考えると日本語学校との関係構築を含めて募集活動を行っていくべきである。専門学校全体（柔道整復学科30名、介護福祉学科40名）の84.5%の入学生を確保できた。都心ではない地の中で募集活動をどのように行なっていくかを考えていく必要がある。</p>	<p>立地的には、若干駅から遠い場所ではあるが、駐車場が完備されているため車で通学でき、駅から直通のスクールバスも出ている。しかも運転手は時々、教員が運転しているため、安心感も湧く。また、学内に接骨院があり、魅力的ではないかと思われる。</p>	<p>柔道整復学科30名、介護福祉学科40名の定員を充足させるために以下の方策を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校長を中心とした定期的訪問ルート確立と学校の特長の周知及び信頼の獲得。</li> <li>② 対峙した生徒・保護者・関係者等が対象者を入学に導くまでのコミュニケーション能力を教職員が向上させる。</li> <li>③ 年度内18回実施されるオープンキャンパスの位置づけと充実の見直し。</li> <li>④ 国家資格取得を目指す学校を社会人等に周知する。</li> <li>⑤ 本校在学生の母校から安定して入学者を獲得する方策の計画と実践。</li> <li>⑥ 留学生対策。</li> <li>⑦ 同法人内の大川学園高等学校及び大川学園高等専修学校からの内部進学者の増加。</li> </ol> <p>人口動態の把握と都道府県別年代人口の推移の把握。 上記方策を達成するための有効な予算配分が必要となる。</p>

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>財務基盤として、5 年程度の財政状況の把握には努めており、財政状況はある程度健全であると判断している。専門学校介護福祉学科の留学生受入れを開始してからは、入学者の増加に繋がっているものの、ここ数年、募集定員を若干下回っており、今後の人口動態に鑑みても、経営基盤強化に向けた課題は山積しており、決して盤石とは言い難い。</p> <p>予算については、規程に定められており、年度予算状況についてはまず予算編成方針を決定し、それに基づき予算計画が策定されている。また、中期計画による予算は、計画に沿った適正な予算配分により策定されていると判断している。</p> <p>また、予算の執行は、システムで管理し妥当に執行されている。</p>	<p>在籍人数によって収入がわかるが、令和 4 年度は減少になっていない。建物修繕や大きな修繕が無かったことや、駐車場を貸し出しているということもあり、黒字経営であるが、ひと昔と比べると減収とはなっています。ある介護施設では、年間の電気代が、13,500,000 円上がったとのことである。</p>	<p>定員の確保はもとより、教育の充実を図るなど更なる抜本的経営改善が必要である。</p>

基準 9 法令等の遵守

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>法改正などについては関係教職員に通達を回覧で通知し情報の共有を図っているが、今後もチェックしていかなければならない点もあると思われる。学園の教育理念「自立・協調・奉仕」の精神に則り法令等を遵守し、学園の運営を行うことを目標としている。今後は、教職員・学生に対する法令遵守のためのルール作成、啓発活動が必要である。今後も、自己点検・自己評価の体制を確立し、学校関係者への結果を経て、学内の運営委員会・職員会議等で話し合い、より良い学校運営が出来るように心掛ける。</p> <p>学則等法令に定められた項目及び教員情報について、公開が不十分な点もあると思われるので、チェックは必要とされる。</p> <p>今後も、学校の概要、トピックス等は積極的に情報発信している。「学校評価委員会」・「教育課程編成委員会」等の情報も学園ホームページに公開している。</p>	<p>特になし。</p>	<p>今後も専門学校独自のスクール・コンプライアンス体制の確立を目指し、さまざまなシーンでのルール作りがこれからも必要である。</p> <p>また、教職員の研修会への参加。</p> <p>教員の情報も含め、運営委員会・職員会議承認後に公開を推進する。</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献

自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>社会貢献については「自律・協調・奉仕」という創立者の言葉に代表されるように、学園の創立以来、地域に根ざした学園、そして医療・福祉を学ぶことにより、人々を健康や幸福に導くことを目標に掲げ、学園全体で取り組んでいる。</p>	<p>地域貢献等を行うことでプラスαになり大変なこともあるが、いつか必ず何かにかえてくると思う。</p> <p>高校の方の募集は、新型コロナウイルス感染防止の関係で、高校生の活躍の場がなかったことにより募集にひびいた原因の一つだと思われる。エネルギーも必要であるが、やろう！という姿勢も大事だと思う。</p>	<p>コロナ渦で厳しい面はあるが、社会への貢献の度合いや本校の教育方針、教育効果等に照らして有意義な行事については積極的に取り組んでいきたい。また、学生の自発的な参画を促したい。</p>

令和6年3月18日

記録：関根 浩

## 令和5年度 第2回 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時 令和6年3月15日(金) 13時30分
2. 場所 大川学園医療福祉専門学校 2階会議室
3. 出席者 新井浩昭(下加治自治会会長)…欠席  
圓山和也(芳友会会長(同窓会))  
小林健一(つつじの園施設長)  
高橋誠一(彩の森接骨院院長)  
岡部一宏(大川学園高等学校校長)  
平澤淳校長 霞孝行柔道整復学科長 星野成美介護福祉学科長  
岡村忠彦教務部長 福島有美事務室長 関根浩学務部長

### 4. 議題

- ①校長挨拶
- ②令和5年度学生の状況・学生募集振り返り等
- ③年間行事予定について
- ④意見・助言等
- ⑤事務連絡

### 5. 校長挨拶

お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。自己評価報告書については、未だ期の途中の為、次回5月に開催する「学校関係者評価委員会」で振り返りをさせていただきます。卒業式は無事に終了し、在校生は春休みに入っています。来月5日(金)は入学式、留学生も人数多く入学してきますので、色々ご協力いただきたいと存じます。

### 6. 令和5年度学生状況・学生募集振り返り等

現時点での就職状況は、柔道整復学科が残り4名、介護福祉学科は残り1名となっています。毎年のことですが最終的には100%の就職率になると思われれます。今年度は、コロナ禍では出来なかった介護福祉学科の「Job Café Ohkawa」も開催でき、柔道整復学科の「就職ガイダンス」も併せ、両学科とも就職イベントを開催することが出来ました。現時点での退学者数は、柔道整復学科11名、介護福祉学科12名となっています。令和5年度の留学生は、1年生が10名、2年生が16名で、令和6年度新1年生は19名の入学が予定され、今年度からは、初めてミャンマーからの学生達が入学してきます。令和6年度の新入生は、柔道整復学科が18名、介護福祉学科が33名、留年生が各学科1名ずついますので、柔道整復学科19名、介護福祉学科34名からのスタートです。学生アンケート結果については、中には厳しい意見

もありましたが、温かいお言葉として考え、また、「なぜ入学を本校に決めたのか？」という質問の回答を参考に募集へと繋げていきたいと考えています。そして、最後の方にある質問での「当校に入学して良かったか？」や「親族に当校を勧めるか？」の回答率を100%に近づけるような環境づくりに心掛けていきたいと考えています。また、柔道整復学科の教育課程編成委員会内でのご意見で、『学生アンケートで(14)番「入学して良かったと思っていますか」と(15)「自分の親族に本校への入学を勧めますか」の質問で「はい」と回答した学生に、何で「はい」を選んだのかを今後の質問事項に加え、色々とデータを結び付けていくといいと思う。この件については、マイナスを追っていくよりもいいと思う。また、教員にもアンケートを行うことで、より一層の集計結果が強く結びつくと思われる。』といったようなご意見を頂戴致しました。よって次回は「はい」と答えた学生に回答を求めるアンケートにしていきたいと考えています。

#### 7. 年間行事予定振り返り

年間行事は、コロナ禍前のように戻りました。学園祭も500人以上も来場し盛り上がりました。

#### 8. 意見・助言等

- 4年ぶりの学園祭、しかも500名の来場者ということで、良い思い出となり、関係作りについても良い結果になったのではないかとと思われる。
- 留学生の対応では、新しい文化の中で、本人達も地域に応じた特色に合わせていくことは大変だと思いますが、留学生（外国人）の雇用は介護施設にとって重要なことである。
- 新入生の内訳で、高校からの内部進学者は何名ですか？  
⇒ 柔道整復学科が2名、介護福祉学科が4名です。
- 現在、厳しい経営難に陥っている接骨院も多い中、接骨院へ入職する学生達の募集も厳しい状況である。何か我々で協力できることがあれば、協力させていただきます。
- 内部進学ではお世話になります。高校生徒募集が厳しい状況である。そんなこともあり、内部進学者が少ないのが現状である。入学した者のご指導よろしくお願ひします。
- 高校との合同学園祭、今後もお世話になります。
- 学生アンケートについて、高校側では、ここまで詳しく生徒達にアンケートの回答を求めないが、このような学生をつぶやきが大切なことである。
- 国家試験の発表は、柔道整復学科が3月26日(火)、介護福祉学科は3月25日(月)です。合格率100%になるよう願っています。
- 柔道整復学科の進路未決定者は4名、9月に「就職ガイダンス」を開催しているが就職への意識が向かなかったようで、先週あたりから学生達は動き出しました。場所によっては、今年度は合格率がよさそうなので締め切っている接骨院もあります。
- 介護福祉学科の進路未決定者は1名、現在、介護実習中なので、一旦、就職活動を止めている学生です。

- 来年度は、介護福祉学科の留学生マッチング会を10月25日(金)に予定しています。
- 今回の国家試験の結果予想は、柔道整復学科は100%、介護福祉学科は留学生も併せて50%だと思われます。

9. 事務連絡

次回開催予定 令和6年5月9日(木) 13時30分 2階会議室